

各指定校における「いじめ未然防止プログラム」の特徴【高等学校】

学校名	特 徴	該当ページ
岩見沢西 高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ●将来への目標を明確にさせ、進路意識を育成し、自己有用感をもたせる。 ●生徒同士の関わりを増やし、互いに絆を深めさせ、居場所を自ら作り出す。 ●既存の行事や取組を中心に生徒と教師との関わりを多くする。 	<p>◆62～63 頁</p> <p>■129～130 頁</p>
札幌東豊 高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒会執行部と教師が主導し全校に波及させる挨拶運動や、ボランティア活動など地域の行事への積極的な参加により、コミュニケーション能力や望ましい人間関係を築く力を育成しています。 ●活動の初めの段階では、主に教師が活動を指導し、生徒が活動の進め方について理解できた時点で、生徒会執行部が中心となって活動できるよう、指導の工夫を図っています。 	<p>◆64～65 頁</p> <p>■131～132 頁</p>
倶知安農業 高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒の自己理解と教職員の生徒理解が進むよう、教育相談、コミュニケーションスキルトレーニング、生徒理解会議等を実施しています。 ●生徒に「拒否する力」や「相談する力」を育成するとともに、規範意識の向上や共同的な活動を通して、居場所づくりと絆づくりを重点に取り組んでいます。 	<p>◆66～67 頁</p> <p>■133 頁</p>
登別青嶺 高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ●講演会でのロールプレイングや意図的に生徒同士がコミュニケーションを図る場面の設定など、生徒のコミュニケーション能力を育てています。 ●生徒が落ち着いて安心して学習に取り組めるように、「ほっと」や「hyper-QU」の実施と分析により生徒理解に努め、生徒の居場所づくりにつながるよう、指導の工夫を図っています。 	<p>◆68～69 頁</p> <p>■134 頁</p>
富川 高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ●地元の中学校出身者が大半を占める本校では、小学校からの人間関係がそのまま引き継がれていることが多いことから、いじめ未然防止に向けて、仲間の新たな一面を発見し、お互いを認め合える人間関係を構築できるようにすることを目的とし、他者とのコミュニケーションの取り方を重視した活動をしています。 	<p>◆70～71 頁</p> <p>■135 頁</p>
函館中部 高等学校 (定時制)	<ul style="list-style-type: none"> ●構成的グループエンカウンターを行い、望ましい人間関係形成能力やコミュニケーションスキルを育成する。 ●「アセス」の結果分析に基づいた教育相談を年間2回行い、生徒が抱える課題の早期発見・早期解決に努める。 	<p>◆72～73 頁</p> <p>■136 頁</p>
上ノ国 高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ●「いじめ根絶討論会」は生徒会執行部のリーダー性と主体性を引き出すために、事前準備に十分に時間を取っている。また、全校生徒の活動においては各グループのリーダーを指名し、グループリーダーとしての役割を持たせ話し合いを進めることで自己有用感を高める活動となっている。また、異学年間の交流は人間関係調整能力を高め、生徒間の信頼関係を深める機会となっている。 	<p>◆74～75 頁</p> <p>■137 頁</p>
旭川工業 高等学校 (定時制)	<ul style="list-style-type: none"> ●「食の感謝祭」「学校祭」などの特色ある学校行事を通して生徒相互の絆を深め、周囲から認められることにより自己有用感を育てています。 ●進路実現に関しては、「各種資格・検定の指導」「外部講師による面接指導」「職業講演会」を行うなど、生徒の不安感を取り除き、職業観を高めるための工夫を図っています。 	<p>◆76～77 頁</p> <p>■138 頁</p>
幌加内 高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ●同世代や異世代との交流を通してコミュニケーション能力を高め、いじめ未然防止を図っています。 ●学校内の学習に加えて高大連携・外部の専門家から学習した知識を基に、生徒が主体的に「幌高商店会」を企画・経営することで、生徒同士の協力や来店するお客様への対応を通して自己有用感を醸成し、自己理解を深めると同時に多様性を理解させています。【主体性と協働性】 	<p>◆78～79 頁</p> <p>■139 頁</p>
遠別農業 高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ●日常の授業において、討論や発表の場面を取り入れ、コミュニケーションに必要な自分の考えを表現したり、相手の考えのよいところを見つけたりする力を育てています。 ●生徒の実態を把握するために、教育相談週間の設定や事後の生徒理解会議を実施するとともに、職員会議の中で「気になる生徒」の指導の在り方について、情報共有や共通理解を図っています。 	<p>◆80～81 頁</p> <p>■140 頁</p>
枝幸 高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒会行事に関わる取組や地域の人々と関わる活動等を年間を通して計画的に実施することにより、他者と積極的にコミュニケーションを図ろうとする力を育むなど、いじめの未然防止に努めています。 ●「学習会」の実施や地域等の人材を活用した進路行事、年間を通じたコミュニケーション・トレーニング（ピア・サポートを含む）を中心に、居場所づくりができるよう、指導の工夫を図っています。 	<p>◆82～83 頁</p> <p>■141 頁</p>
北見工業 高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ●いわゆる「職業高校」の特色である実習や課題研究における小集団学習を生かし、生徒同士、生徒と教師の絆を深めるとともに、地域イベントへの参加を通して自己有用感を育てています。 ●学校、専門学科、ホームルーム、グループなど、活動のねらいに応じたグループ編成について、工夫を図っています。 	<p>◆84～85 頁</p> <p>■142 頁</p>
新得 高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ●望ましい集団づくりに資する特別活動を推進し、生徒一人一人の進路実現を図るきめ細かな学習・進路指導を進めています。 ●いじめの把握に関わるアンケートや面談を実施し、情報モラルやマナーの育成等の情報教育を進める中で、生徒一人一人のコミュニケーション能力の伸長を図っています。 	<p>◆86～87 頁</p> <p>■143 頁</p>
釧路東 高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ●学力の向上や学校行事の充実などをとおし高校生活の向上を図る取組を推進し、いじめの未然防止に努めています。 ●ボランティア活動を体験させ、積極的に取り組ませることをとおし他者を思いやる心を育てています。 	<p>◆88～89 頁</p> <p>■144 頁</p>
根室西 高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ●教育相談の充実を図るとともに、「Q-U」や「ほっと」などの諸検査の結果を基に生徒理解を図り、生徒との信頼関係づくりに努めています。 ●地域の機関や企業、北方領土研究会など様々な教育力を活用し、地域やともに生きる仲間を大切にす心情及び態度を育てています。 	<p>◆90～91 頁</p> <p>■145 頁</p>

【注】「特徴」は「年間の取組計画」から抜粋。「該当ページ」は上段(◆)「マトリクス」「年間の取組計画」、下段(■)「主な活動」